(C)　無断での転載、改変、複製、頒布を禁止します

憲法といのち輝く日本を

活動地域　京都、北陸信越、東海

井上さとしさん

7月の参院選に向けて全国を駆け巡る日本共産党の比例候補5人。今回は「憲法といのち輝く日本」の実現へ全力をあげる井上さとし（哲士）参院議員（67）を紹介します。

いのうえ・さとし＝1958年山口県生まれ、広島で育つ。被爆2世。京都大学法学部卒。国会議員秘書、赤旗記者などを経て2001年参院選挙（比例区）で初当選。現在4期目。党幹部会委員、党参院幹事長・国会対策委員長

国会議員へ歩んだ原点
被爆2世だと自身も知って

原爆で命を奪われた高校の先輩たちの無念を胸に刻んできた井上さん。自身が被爆2世であることを知ったのは30歳のころでした。

広島に原爆が投下され、当時女学生だった井上さんの母親は、避難してきた人たちを看護して被爆した「救護被爆者」です。母親が重い口を開いたのは被爆してから何十年も過ぎてからのことでした。「姉の結婚の障害になりたくないという思いがあったからだと思う」と井上さん。被害者を悩ませ続ける放射能の理不尽さに憤りを募らせてきました。

日本政府に禁止条約参加を呼びかける井上議員と署名に応じる人（右側）＝2024年9月26日、東京・有楽町駅前

「核兵器をなくす」「人の命が大切にされる政治、憲法9条を守り、生かす日本をつくりたい」――井上さんの原点です。核兵器廃絶を求め、国連を訪問したのは3回。核兵器禁止条約が採択されたときの国連会議（2017年）にも参加しました。

条約に背を向ける自公政権。井上さんはこれからも政府の姿勢をただし、条約への署名を迫っていきます。

原発「活用」厳しく批判
財界の献金が政治ゆがめた

原発の「依存度を低減する」から「最大限活用」に方針転換した石破茂内閣。井上さんは厳しく追及してきました。

北陸電力の志賀原発（石川県志賀町）は、能登半島地震（2024年1月）で大きな被害を受けました。複数の活断層が連動する範囲が、再稼働申請時の想定を超えていたと指摘する井上さん。「地震列島日本では安全な原発立地場所はない」と強調します。

石破首相が再稼働に固執する背景には経団連の要望があります。そのテコとなったのが企業献金です。日本原子力産業協会の会員企業から自民党への献金が11年間で76億円に上ると告発した井上さん。「国民の声に反する原発推進へとかじを切った。企業献金が政治をゆがめているのは明らかだ」と、「財界いいなり」政治の実態を明らかにしました。

地震直後の能登半島へ
現地要望国に制度改善実現

火災のあった輪島市の中心部を調査する井上氏（左から2人目）＝2024年1月3日、石川県輪島市

能登半島地震の発災直後の24年1月3日に現場に入りました。訪問した避難所の「食事が配られない」「トイレの水が流せない」などの切実な声を政府に伝えました。その後も何度も被災地を訪れ、被災者の実態や要望を国会で取り上げ医療・介護利用料の無料の延長や避難所指針の改定、自治体による備蓄への支援などを実現しました。

能登半島地震被災者共同支援センター責任者の藤野保史氏（日本共産党元衆院議員）は、「井上さんは災害調査の大ベテラン」と話します。中越地震（04年）、東日本大震災（11年）など、さまざまな災害で、現場に合わせた柔軟な制度の適用や制度改善を国に迫ってきました。

藤野さんはいいます。「井上さんはいつも被災者の声を親身になって聞き、その願いの実現を求めてきました。災害現場、被災者の声と国会をつなぐ、かけがえのない議員です」

比例5氏ワンチーム

シリーズ　参院選躍進へ

金権腐敗の政治を追及
石破首相の商品券ただす

金権腐敗政治を一貫して追及してきました。

井上さんは、石破首相による自民党議員への商品券配布は歴代政権が行っていたと告発（3月）。税金が原資の官房機密費が使われていた疑惑をとりあげました。「こういう慣例が引き継がれてきたのではないか」との追及に石破首相は「答える立場にない」と否定できませんでした。

日本共産党は「企業・団体献金全面禁止法案」と「政党助成法廃止法案」を30年間、国会に提出し続けています。井上さんは「企業献金によって政治がゆがめられているのは明らかです。世論も禁止を求めており、これからも論戦の先頭に立っていく」と力を込めます。

女子トイレ問題
市民の調査に注目
国会で答弁引出す

トイレの男女格差の問題を国会でとりあげました。通勤通学中や旅行先の駅などの女性トイレに並ぶ行列。長時間の外出をあきらめる女性は少なくありません。

女性トイレの行列で困った体験をした都内在住の百瀬まなみさんは、公共交通機関や商業施設などの便器数の男女比を調査しました。調査数は全国で780カ所。1.75倍の比率で男性トイレが多いという結果でした。

この現状を知った井上さんは国会（23年5月）で取り上げ、担当相は「待ち時間の男女比均等化がのぞましいことを自治体に周知していく」と答弁しました。

百瀬まなみさん

まさか私の活動が国会で質問になるなんて

井上さんは「この問題に男性であるわれわれが気づいていない構図自体が日本でのジェンダー不平等をあらわしている」と話します。

「まさか自分の活動が国会で質問になるなんて」と百瀬さん。多くの共感を呼び、テレビ局などからも取材依頼が来るようになりました。「せめて公共の場では男女比を1対1にするように法整備や各自治体で条例化してほしい。そのためにも井上さんの活躍に期待しています」

学童保育の学童3割が途中退所
指導員の処遇改善
大規模化の解消を

学童保育の大規模化が大きな問題になっています。施設の大規模化で子どもが混ざあっていることや、指導員の援助が追いつかないことなどを理由に途中退所する児童が35%にのぼっていることを紹介した井上さん（3月）。子ども担当相は「それが理由で子どもが行きたがらないのであれば、改善すべきだ」と答えました。

井上氏は「大規模化を解消するためにも学童保育の子ども集団の単位を40人としている国の基準を見直すべきだ」と求めました。

被爆国の国会に必要な人

愛知県原水爆被災者の会理事長
（日本被団協代表理事）
金本 弘さん

井上さんと私は広島の同じ中学校を卒業した同窓生です。私がずいぶん先輩なのですが、親しみを持って見ています。

昨年12月、日本被団協がノーベル平和賞を受賞しました。長年の願いがかない、驚きとともにうれしかったです。井上さんも、わがことのように喜んでくれました。

核兵器の使用を公言したり、もっと使いやすい核兵器を開発したりする動きがあります。しかし、日本は核兵器使用を前提にした「核抑止」を認め、軍事費も大幅に増やしています。唯一の戦争被爆国でありながら、核兵器禁止条約に署名しようとしません。

こうした問題に一番はっきりと声をあげているのは日本共産党です。とくに井上さんは被爆者に寄り添い続けてくれている。本当に頼りにしています。禁止条約の批准をはじめ、被爆国の日本の国会に絶対に必要な人です。

マンホール撮影

集いや演説会などで地方を飛び回る井上さん。訪問先で散歩することが習慣です。そこで見つけたのがご当地マンホール。各地の歴史や地域を象徴する絵柄に彩られたマンホールを撮影することが新たな趣味に。SNSで撮りためたマンホールコレクションを随時公開しています。

三つ星議員

昨年に続き2年連続で3回目の表彰となる三ツ星議員に選ばれた井上さん。NPO「万年野党」（田原総一朗会長）が国会議員の活動を質問回数・時間、質問主意書数などで選定しています。参院の中では質問数・時間ともにトップです。